

第7学年〇組 国語科学習指導案

令和〇年〇月〇日 (〇) 〇校時

指導教諭 〇〇〇〇 印

指導者 〇〇〇〇 印

1 単元 いにしえの心に触れる

2 目標

- (1) 歴史的仮名遣いや漢文の訓読のルールについて理解する。 (知識及び技能)
- (2) 文字の配置や大きさに気を付けて書く。
- (3) 古典の話の内容を読み取る。 (思考力, 判断力, 表現力等)
- (4) 登場人物の心情を文脈から想像し、自分の言葉で表現する。
- (5) 歴史的仮名遣いや古語に気を付けて音読しようとする。 (学びに向かう力, 人間性等)
- (6) 古典の話の面白いところや興味をもったところを見つけようとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①歴史的仮名遣いや、故事成語の意味を正しく理解することができる。(言語文化ア)	①古典の話の流れを理解することができる。(読むことイ)	①歴史的仮名遣いや古語に気を付けて隣の人に聞こえるように音読しようとすることができる。
②漢文の訓読のルールを理解することができる。(言語文化ア)	②登場人物の行動や心情を読み取ることができる。(読むことイ)	②古典の話の面白いところや興味をもったところを見つけることができる。
③文字の配置や大きさに気を付けて書くことができる。(書写エ)	③登場人物の心情を自分の言葉で表現することができる。(書くことウ)	

4 基盤

(1)「今昔物語」は平安時代末期に成立したと見られる説話集であり、日本、インド、中国の説話が収められている。釈迦の歴史や中国への仏教伝来の話、日本の歴史や世俗に関する話など、様々な種類の1千以上の説話を読むことができる。さらに、話の登場人物は多岐にわたっており、武士や商人にとどまらず妖怪や幽霊も登場する。その中でも今回扱う「比叡山の実因僧都の強力のこと」は、教科書に載っている教材ではないが、便覧に話の冒頭が紹介されているもので、登場するのは、僧とその弟子(少年)である。力持ちと噂の僧は、いったいどれほどの力の持ち主なのかを、僧が寝ている間に試すために、僧都の足の指に胡桃を挟んで試してしてやろうという弟子の子どもらしい感情が伺える場面から話

は始まる。僧都の余裕のある態度や、弟子たちの驚きを隠せない表情などが、話の流れから想像しやすく、古典に親しむという目的にふさわしい教材であると考えている。

(2) 前向きに学習に取り組む生徒が多い学級である。国語科ではこれまでに、物語や説明文を読むことや、スピーチ、詩の感想を伝えあうこと、さらに、グループで詩の主題について考えそれを発表することなどに取り組んできた。また、感想文や鑑賞文を書いたり、書写の基本や文字の形を観察したりする学習機会も設けてきた。中には、文章を書いたり大きな声をだしたりすることが苦手な生徒もいることは確かだが、基本的に目の前の課題に素直に取り組む、最後までやり遂げようとする生徒が多い。また、何人かの生徒は、授業中に疑問に感じたことや興味を持ったことがあればすぐにつぶやきとして言葉に表す習慣があり、それによって周りの生徒がより活発に発言したり、学習にとりくんだりするような場面が多々ある。さらに、仲間の意見や作品に関して興味をもっている生徒が多く、交流活動や発表などには積極的に取り組んでいる。古典に関しては、百人一首を得意としていたり、小学校の頃に「竹取物語」の冒頭を暗記した経験のあったりと、古典の知識を多少もっている生徒も見られる。

(3) 今回の話には、想像を超える怪力の持ち主である僧と、まだ見習いの無邪気な弟子たちが登場する。生徒が自然に内容に寄り添うことができるよう、生徒との自然な対話をいつも以上に意識して取り入れたい。また、歴史的仮名遣い等の必要最低限の情報は与えつつ、難解な古語の理解に思考が偏らないよう配慮したい。さらに、生徒の興味関心を引き出すために、まず「皆は力を試すときにどのような方法を使いますか？」と問い、対話を通して古典の世界に意識を向けていく。力を試すために胡桃をこっそり僧都の足の指に挟むところや、僧都は実は寝たふりをしていたというところなどは、中学1年生の子どもたちが関心をもって読むことができる展開になっているだろう。

5 展開と評価計画

次	時	◎目標 ○学習内容・学習活動	◇評価規準 ◆評価方法
第一 次	1 2	◎仮名遣いに注意したりリズムを味わったりしながら古典を音読する。 ○「いろは歌」と「月に思う」を読む。 ○「蓬萊の玉の枝『竹取物語』」の冒頭部分を読み、歴史的仮名遣いやその読み方について知り、音読する。 ○リズムを味わいながら読み、古典の文章に読み慣れる。	◇知① ◆行動観察 ◇主② ◆行動観察
	3 4	◎古典の文章を読み、興味や関心をもってその世界に触れる。 ○貴公子の失敗談について感想をもつ。 ○竹取物語の終末について知り、登場人物の行動や思いについて考える。	◇思・判・表① ◆ノート ◇思・判・表② ◆ノート

第二次	1	◎「矛盾」の故事を繰り返し音読し、漢文特有の言い回しに読み慣れる。 ○「矛盾」や「韓非子」や故事成語について知る。 ○「矛盾」の故事を繰り返し音読する。	
	2 3 4	◎中国の古典に由来する言葉が今も生活の中に生き続けていることを知る。 ○矛盾以外の故事成語を知り、日常生活の中でどのように使われているかを考える。 ○故事成語を使い、短い文章を考える。 ○故事成語を使い、四コマ漫画を考えて、交流する。 ◎漢文の訓読の仕方を理解する。 ○白文や訓読文、返り点、書き下し文など漢文の訓読のルールについて理解する。	◇知②漢文の訓読のルールを理解できたか ◆ワークシート
	5 6	◎古典の話を読み、現代にも通じる面白さを見つける。 ○「比叡の山の実因僧都の強力の語」を読み、登場人物の様子を想像し、おもしろいと思ったところを挙げる。 ○「比叡の山の実因僧都の強力の語」に副題をつける。	◇思・判・表現③ ◆ワークシート ◇主③ ◆ノート
	第三次	1	◎副題を文字の大きさや配置に気を付けてペンで清書する。 ○文字の大きさや配列に気を付けて、題名と副題を清書し、たんざくを書く。 ○鑑賞し合い、仲間の作品の良いところを見つけて交流する。

本時の学習

- (1) 本時の目標 古典の登場人物の心情や様子を想像して読む。(思考力・判断力・表現力等)
- (2) 展開

学習場面と生徒の取り組み	教師の支援と評価
1 前時までの授業内容と「竹取物語」で学んだことをふりかえる。	・日本最古の物語であるとされる「竹取物語」のあらすじや印象に残っている場面を挙げるよう指示して、何人かに発表させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 古典の登場人物の心情や様子を想像して読もう。 </div>	
2 「伊曾保物語」の「犬、肉の事」を読む。	・「竹取物語」とは違う古典があることを話し、その例として「伊曾保物語」の「犬、肉の事」を配布し、古文と現代文を音読して読む。あらすじを確認し、どのような感想をもったか等生徒の自然なつぶやきや発言を拾い教室全体で共有する。また、今日は「今昔物語」のお話を扱うことを確認する。

<p>3 力を試すには、どんな方法で試すか考える。</p> <p>4 「比叡山の実因僧都の強力のこと」のワークシートの使い方を知る。登場人物を確認する。</p> <p>5 冒頭二行を音読し、挟んだ弟子たちの様子、心情について想像する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・びっくりさせてやろう。 ・本当にそんなに力持ちなのかな。 ・どんな反応になるか楽しみだ。 <p>7 四行目を音読し、僧都が寝たふりをしていたことを知り、僧都の心情を想像する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かわいい弟子たちだ。 ・俺の力を見せてやろう。 ・ちょっとびっくりさせてやる。 <p>8 最後の部分を音読し、八つの胡桃が砕け散った場面を読み、そのときの弟子たちの反応を想像する。この話の続きを「若い弟子たちは」を主語にした一文で付け加え、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とんでもない力をもっている僧都をさらに尊敬した。 ・驚きすぎて言葉を失った。 <p>9 古典には、現代を生きる私たちにも感じられる面白さがあることを知る。</p> <p>10 本時の学習のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・もう一つのお話を読む前に、「どれだけ力持ちかを試すには、どんな方法をとる？」と問う。 ・「比叡山の実因僧都の強力のこと」のワークシートを配り、ワークシートの使い方と、登場人物を紹介し、「僧都」がものすごい力もちであることを確認する。 ・話の冒頭二行を板書し、ゆっくり範読し、「若き弟子」たちが胡桃を用いて、力を試そうとしたことを確認する。ワークシートに書き込む時間をとる。 ・三行目を板書し、胡桃を足の指それぞれに挟んだので、全部で八つの胡桃が足に挟まっている状態であったことを確認し、範読する。また、弟子たちはどのような気持ちで挟んだだろうかと問い、想像するように促す。→何人かに発表させる。 ・四行目を板書し、範読し、「僧都が虚寝」していたことを確認し、「僧都」はなぜ寝たふりをしていただろうと問い、そのときの「僧都」の心情を想像させる。→何人かに発表させる。 ・最後の部分を板書し、僧都が寝伸びをするようにうーんとうめいて足の指で胡桃を割ったことを説明する。そのときの「若き弟子」たちの表情や、発したであろう言葉を想像させ、「弟子たちは」で始まる一文で（現代語）続きを書かせる。10人くらいに発表させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【評価】（思・判・表）</p> <p>弟子たちの驚いた表情や言葉を想像し、自分の言葉で表すことができたか。（ワークシート）</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・何人かの生徒に発表させ、古典の世界にも現代にも通じる（現代を生きる私たちも味わえる）面白さがあることを確認する。 ・本時のまとめをし、次時の予告をする。
---	---